



## 防除方法

- 1 収穫後、被害株を集めて、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ジマンダイセン水和剤](#) M3 【400～600倍 30日／3回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [アミスター20フロアブル](#) 1 1 【2,000倍 3日／3回】
  - ・ [アフエットフロアブル](#) 7 【豆類(未成熟 除えだまめ)2,000倍 前日／3回】

## 輪紋病

### 留意事項

- 1 ジマンダイセン水和剤はかぶれに注意する。

### 防除方法

- 1 被害茎葉は早く除き、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 種子は無病株から採種する。
- 3 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ジマンダイセン水和剤](#) M3 【400～600倍 30日／3回】

## ウイルス病

### 留意事項

- 1 種子、アブラムシ類により伝染する。
- 2 秋期感染による被害が最も大きい。

### 防除方法

- 1 健全株から採種した種子を用いる。
- 2 苗床は寒冷しゃで被覆する。
- 3 苗床及び本ぼでの発病株は見つけ次第、抜き取り処分する。
- 4 有翅アブラムシ類の防除に努める。(アブラムシ類の項参照)
- 5 除草を徹底する。

## アブラムシ類

### 留意事項

- 1 アドマイヤー1粒剤の成分イミダクロプリドの総使用回数は3回以内(定植時及びは種時の土壌混和は合計1回以内)。
- 2 スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤は同一成分ジノテフランを含み、総使用回数は2回以内。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## 防除方法

- 1 シルバーポリフィルムで、マルチングする。
- 2 下記の薬剤を施用する。
  - ・ [アドマイヤー1粒剤](#) 4 A  
【3kg/10a まき溝土壌混和 は種時/1回】または  
【2g/植穴（但し、6kg/10aまで） 植穴土壌混和 定植時/1回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) 4 A 【2,000倍 7日/2回】
  - ・ [エルサン乳剤](#) 劇 1 B 【1,000~2,000倍 7日/2回】
  - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【3,000倍 7日/3回】
  - ・ [スミチオン乳剤](#) 1 B 【1,000~2,000倍 3日/3回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。